

教育方針・教育目標

四万十町立川口小学校

1. 教育方針

- (1) 学校経営の中心は子どもである。小規模校のよさを活かし、子どもが輝く学校づくりに努める。
- (2) 21世紀をたくましく生き抜く、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成に努める。
- (3) 子どもたち一人ひとりの個性を尊重しながら、心身ともに健康で確かな学力と豊かな人間性・社会性を備えた児童の育成に努める。
- (4) 授業力の向上をめざし、創造的な指導方法の改善に取組、生きる力としての基礎学力の定着・充実に努める。
- (5) 家庭・地域との連携を強化し、地域の特色を活かし、信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教育への情熱と使命感をもち、自己研鑽に励み、教育目標の具現化へ向け、全教職員が組織的に学校経営に参画する。

2. 学校教育目標

心豊かで、たくましく、自ら学ぶ児童の育成

3. 川口小学校の求める像

(1) めざす学校像

- ①一人ひとりの子どもの居場所がある学校
- ②教職員が協同して教育活動を行っていく学校
- ③保護者や地域から信頼される学校
- ④元気で明るく笑顔いっぱいの学校

(2) めざす子ども像・・・進んで自ら学び、互いに認めあえる子

- ①「知」・・・よく考え、意欲的・主体的に学びあう子
- ②「徳」・・・自分も友達も大切にし、心豊かで思いやりのある素直な子
- ③「体」・・・健康でたくましく生き抜く心と身体をもつ子
- ④「意」・・・思いを正しく伝え合い、協力しねばり強くがんばる子

5. 学校経営

全教職員が経営的視点に立ち、学校教育目標の実現を目指す。

1、子どもを活かす学校づくり

- (1) 児童が自ら学ぼうとする意欲や態度を高める、楽しく分かる授業の工夫に努める。
- (2) 基礎基本の確かな力を培うための個に応じたきめ細かな指導方法の工夫に努める。
- (3) 生命尊重を基調とした教育活動を推進し、「いじめ・差別・暴力」を絶対に許さない、人の痛みがわかり思いやりのある心豊かな子どもの育成に努める。
- (4) 自主・協働の喜びと充実味の味える集団活動を創造し、豊かな関わりを体験させ、コミュニケーション力のある意欲的な子を育てる。
- (5) 社会性の育成を重視し、敬愛と信頼に満ちた人間関係を育てる。
- (6) 日常生活の充実向上を図り、健康で安全な生活習慣の形成に努める。

2、組織を活かす特色ある学校づくり（チーム川口）

- (1) 公立学校として、また地域の学校としてその使命を果たすために、国・県・市の教育方針に基づき、保護者の願いに応える経営をする。そのため、教職員の指導力の向上に力点をおく。
- (2) 指導計画に基づく、学習指導要領の指導内容の確実な実施と、指導方法の構築・改善を図る（PDCAサイクルを活用した授業改善）。
- (3) 授業における学習指導の充実のため、学習指導要領の内容について絶えず研究に努め、各教科・領域の特色と内容の系統性を熟知し、指導法・学習形態等の研究を深め、実践化を図る。
- (4) 本校の特色を生かした教育課程を編成する。特に、「複式教育」について研究を深めることを通して、本校教育の充実を図っていく。
- (5) 教職員の特性、持ち味を大切にし、それを活かすとともに、創造性を培う雰囲気をつくり、担当した分掌は責任を持って企画・立案・実行できる、学校組織としての力が機能する職場づくりをする。
- (6) 教育活動の中心は授業である。授業の質の向上を図るため、校内研修を充実させる。
- (7) 「わかる授業、楽しい授業」を通して、基礎・基本の内容を一人ひとりの子どもに確実に身につけさせるとともに、子どものよさや個性を生かすことのできる教育に努める。
- (8) 学級が、どの子どもにとっても安心で安全な居場所となり、子どもたちの主体的で意欲的な活動を導きだし、学び、高めあい、確かな力をつける場として機能するよう、学級経営の研究と実践に努める。
- (8) 潤いと安らぎのある教育環境と教育諸条件の整備を図り、豊かな心の醸成に努め、学習の効率化を図る。
- (9) サービスの厳正を期し、合理的・能率的な組織運営と分掌事務の機能化を図るとともに、学校予算の合理的・計画的執行を図る。

3、地域を活かす学校づくり

- (1) 保護者及び地域社会との連携を密にし、相互理解と信頼をもとに、ともに児童を育てる（学校支援地域本部の活動）学校づくりの推進に努める。
- (2) 学校評価を活用し、地域の人が学校に来たくなる開かれた学校づくりに努める。

6. 学校経営の重点

「チーム川口」を合い言葉に、さらなるステップアップを！

全教職員が経営的視点に立ち参画し、学校教育目標の実現を目指し連携・協働する風通しのよい職場。

学校教育目標の達成に向けて、以下の4点に重点的に取り組みます。校務分掌の各部で組織的に取り組み、達成状況を学期ごとに評価し、次の実践に活かします。

(1) 確かな学力をつける取組

- ・授業づくりの研究実践に取り組む。本研究を通して、学校教育目標の達成をめざす。
このための授業研究を学校経営の柱として重視する。
- ・基礎・基本の定着を図り、確かな学力をつける取組
自ら意欲的・主体的に学び考えて行動する力の育成
誰もが分かる楽しい授業実践を組織的に行う。

(2) 学級経営の充実

- ・子どもの人間関係づくり
関わり合いの中で子ども同士のコミュニケーション能力を培い、「豊かな人間性・社会性」や自尊感情を高める取組を重視する。「かかわり合う子ども」を育てるために、学級経営（温かい心が見える学級・学年）や授業、各領域での活動の工夫や手立てを研究する。

(3) 心豊かにたくましく生きるための取組

- 基本的生活習慣を身につけ、規則正しく、健康で安全な生活をする子どもの育成。
自らの健康や命を守る力の育成。人権教育・安全教育・食育の充実に努める。
体育の時間や体育的行事を通して、体力の確かな向上に努める。

(4) 保護者・地域との連携・協働

- 学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる環境を整備し、地域の絆を強め、地域の活性化につなげる。子どもたちが、安全に安心して心豊かに学べる環境づくりを重視し、保護者や地域と連携・協働し子ども達の健全育成に努める。
人的環境・物的環境・社会的環境等様々な視点から、学びの環境を見直し、楽しく美しい学校、信頼される学校をつくる。

7. 具体的方策

学校経営の重点的事項4点について、具体的な取組を次に記す。

(1) 確かな学力をつける取組

①複式教育の授業スタンダードの確立（授業づくりを通して）

- ◆学校教育目標、研究目標、研究主題を全教職員で共通理解し、組織的・系統的に取組。そのための話し合いの場をしっかりと作る。
- ◆質の高い授業づくりに努める。
 - ・教育課程や教材研究をしっかりと行う。
 - ・常時1時間1時間の授業を大切に、単位時間の目標を明確にして授業に臨む。
 - ・豊かなことばで伝え合う力を各教科の授業の中で重点的に育てる。日々の授業で「伝え合い、かかわり合う」場をつくり、コミュニケーション力を育てる。
 - ・子どもの思いをしっかりと聴き、尊重し、授業に活かす授業づくりに努める。

- ・子どもを学習の主体者として育成する。
 - ・子どもの認知特性に配慮した教室環境や授業づくりに努める。
- ◆教員研修を充実させ、互いの授業力を高める。
 - ・全教員が積極的に授業公開する体制をつくる。
 - ・校内外研修に積極的に参加し、研究に活かす。
 - ・講師を招聘し研修する。
- ◆表現力を育てる場を計画的に設定する。
 - ・作文教育の推進（日記、文集）
- ◆書く活動を大切にする。
 - ・授業ノートづくりを丁寧に指導する。（作文指導・日記指導等）

②基礎・基本の定着を図り、確かな学力をつける取組

- ◆確かな学力をつけるため全校で取組。
 - ・授業づくりで「複式教育の授業スタンダード」に取組。
 - ・学力調査や単元テストを分析し指導に活かす。
 - ・家庭学習の実態を把握し、定着するよう指導に努める。
 - ・授業のノート指導をしっかり行う。
 - ・書くことを豊かに経験させる指導を行う。（日記、文集、新聞づくり等）
 - ・朝の帯時間を活用し、朝読書、加力を実施する。
 - ・特別な配慮を必要とする児童への個別学習支援を行う。
- ◆読書活動の推進
 - ・学校図書室の活用を図る。
- ◆学力の定着と向上を図る授業づくりを行う。
 - ・学習規律、学習意欲の確立
 - ・主体的な学習態度（自ら考え・感じ・行動する）の育成
- ◆思考力・表現力の育成
 - ・話す・聞く、話し合い活動での習慣化の育成
 - ・授業で、考えを書く・まとめと振り返り活動の充実
- ◆個々の教員の授業力を高める。
 - ・授業公開する機会を多くし、互いの研鑽を深め、自らの取組を理解してもらったり授業力を高める機会とする。
 - ・積極的に外部講師の指導を受けることにより、授業力をあげる。

（２）学級経営の充実

① 子どもの人間関係づくり

- ◆豊かな人間性を育む教育を充実させ、子ども達の人間関係づくりに取組。
 - ・道徳教育、人権教育、特別活動、生徒指導等あらゆる場で子ども同士の人間関係を深めるようにする。
- ◆子どもたちが自主的な活動を実現できる場をつくる。
 - ・各教科、学級活動、児童会活動、集会活動、委員会、ボランティア活動等で自主性を育てる。

② 所属感のある学級づくり

◆支持的風土のある学級・学校をつくる。

- ・温かで規律のある、認め合い高め合う学級集団をつくる。
- ・Q-Uによる児童理解を図り学級状況の確認とよりよい状況をつくるための手立てを行う。(構造的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の実施)
- ・いじめや差別を許さない学級・学校づくりに努める。
- ・異学年間でのピア・サポート活動(縦割り班)を通じて自尊感情を育てる取組を進める。
- ・教職員同士、教職員から子どもへ、ほめることを多くする。子どもたちの頑張りとよい行動をたくさん見つけ、タイムリーにほめることで自尊感情を高める。

◆規律のある学級・学校にする。

- ・決められたルールはきちんと守る、守らせることを教職員間で確認し、同じスタンスで指導する。学校としての方向性を大切にする。
(掃除の仕方、遊び方、給食指導 他)
- ・校内外での安全指導を徹底させる。

(3) 心豊かにたくましく生きるための取組

①豊かな心の育成

◆道徳の年間指導計画による実践的な指導

- ・「わたしたちの道徳」等の効果的な活用

◆組織的な生徒指導の充実

- ・いじめ問題、不登校傾向、対人トラブル等の早期発見・早期対応(日々の観察・情報共有)
- ・「あいさつ」への取組強化(日々のあいさつの励行)
- ・集団生活のきまりや時間を守る(規範意識の高揚)
- ・学校美化への奉仕の心の熟成

◆自然・地域・仲間と関わる体験活動の実施

- ・福祉施設・保育園等との、計画的な交流活動の充実

◆人権意識の高揚

- ・人権感覚を高める指導の充実
- ・自尊感情を高め、互いの良さを認め合うスキルの定着

②健やかな体の育成

◆運動好きな子どもの育成

- ・生涯スポーツの基礎づくりと体力の向上(体力テスト)
- ・体育学習を通して、運動技能の向上と運動の楽しさ体験の充実

◆健康生活・安全生活への意識の高揚(健康で安全な生活をするための自己管理能力の育成)

- ・外遊びの推奨、体育の時間等をもとに、体力の確かな向上に努める。
- ・病気の予防とケガの防止
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の実践
- ・基本的な生活習慣の確立に努める。

◆望ましい食習慣の形成(食育の推進)

- ・給食での体験的食育指導を通して、食と体の関連性の理解を促す。

◆登下校の安全確保、緊急避難時の対応指導

- ・通学路・危険箇所の定期的な点検の実施
- ・交通安全への取組継続
- ・事故・自然災害から命をまもるための実践力向上

(5) 保護者・地域との連携・協働

◆人的環境を豊かにする。

- ・教育環境の第一は教師。教師が子どもにとって一番の環境となるよう日々努める。
- ・教職員評価システムを活用し、自己の課題をもって研究に努める。
- ・地域や保護者・関係機関の方々に外部講師をお願いするなど人材を活用し、教育を豊かにする。

◆物的環境を整備する。

- ・必要な用具、教材は計画的に整備していく。
- ・美しい学校、美しい教室をつくる。
- ・子どもの作品や花いっぱいの環境作りに努める。
- ・整理整頓、清掃活動、整備活動を大切にし、教室や廊下の掲示物や校庭等、常に美しく保つよう努める。

◆社会的環境を豊かにする。(学校支援地域協働本部)

- ・家庭・地域とともに歩む学校づくりの推進（PTA活動・地域活動への参加）
- ・保護者や地域との連携により地域で子どもを守り育てる取組を支援する。
(交通安全指導、清掃活動、マラソン大会、運動会等)
- ・安心・安全な学校づくり・・・防災・減災への取組（防災学習・防災訓練）
- ・地域に目を開くような取組を教育の中に取り入れるよう努める。

(総合的な学習の時間や教科活動の時間等)

◆家庭・地域・中学校ブロックとの連携（子どもの健やかな成長を図る情報の共有）

- ・自己評価・学校関係者評価の実施と公表（課題の分析、改善）
- ・学校の取組の理解者を増やすために、積極的な情報発信に努める。
(学校だより・学級だより発行、ホームページの更新)
- ・学校安心メールの有効活用（全児童登録、地域の登録）
- ・PTA、地域、民生児童委員、地域ボランティア、教育研究所、少年育成センター、警察等関係機関との連携を強化する。